
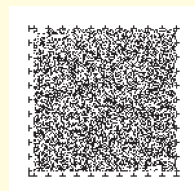


令和4年度
青少年健全育成地区委員会等
推進モデル事例集



 東京都

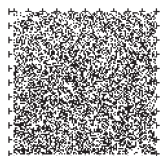
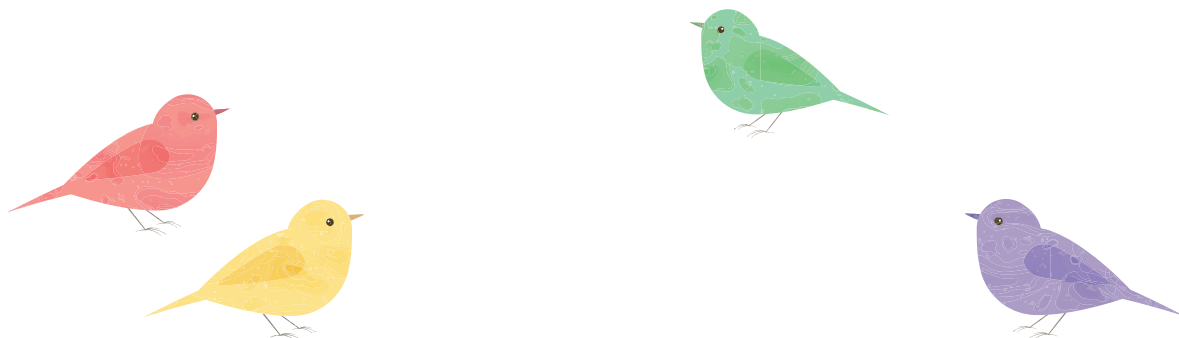


はじめに

次代を担う青少年が心身とも健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。地域の方々とのふれあいや体験の中で、青少年は多様な価値観に触れ、社会性を身につけていきます。

都内には721の青少年健全育成地区委員会があり（令和4年4月1日現在）、地域の実情に即した活動を行っています。本事例集では、地区委員会等が主体となって地域ぐるみで青少年を健全に育成する取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として紹介しています。参考にさせていただくことで、それぞれの地区の青少年の健全育成に関する活動がより活発になり、広がってゆくことにつながると幸いです。

この冊子がみなさまの今後の活動の一助となりますよう、願っております。



目次

■ モデル事例の紹介

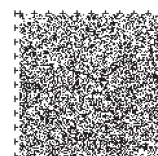
モデル事例1 墨田区青少年育成委員会連絡協議会 「すみだっ子たちの夢支援」	1
モデル事例2 品川区青少年対策荏原第五地区委員会 「～夏休み企画～親子で楽しもう！えばごリアルクエスト☆」	5
モデル事例3 板橋区青少年健全育成中台地区委員会 「我が町探検！防災ウォーキング」	9
モデル事例4 練馬区青少年育成第八地区委員会 「謎解きゲーム『第八版 北町の刃 <small>やいば</small> なぞとき編』」	13
モデル事例5 武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会 「CAP（キャップ）ワークショップ」	17
モデル事例6 国分寺市青少年育成南地区委員会 「平和への願いを込めて折り鶴を折ろう」	21

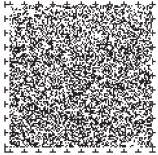
■ 地域の取組事例の紹介

文京区社会福祉協議会 文京ボランティア支援センター 「なつぼら 2022 1Day プログラム」	25
---	----

■ 過年度青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例等一覧（直近10年間）	27
--	----

■ 青少年健全育成地区委員会等推進モデル事業 次年度の募集について	28
--------------------------------------	----





モデル事例1 墨田区青少年育成委員会連絡協議会

「すみだっ子たちの夢支援」

●地区委員会の概要

墨田区青少年問題協議会が決定する青少年対策に協力するとともに、自主的で統一的な青少年健全育成活動の強化と地区青少年関係機関・団体との連絡調整、非行防止・健全育成に関する情報伝達の役割をもって活動を行っています。地区委員会は青少年問題協議会委員、児童委員、保護司、校長・副校長、生活指導主任、PTA代表者、青少年委員、町会・自治会、女性団体および青年団体の代表者、スポーツ推進委員などで構成されており、区内10地区委員会が自主性を持ちつつ連携調整を図りながら、青少年の成長と健全育成に関わる様々な問題解決に寄与しています。

1 事業の概要

——今回モデル事例に指定された、「すみだっ子たちの夢支援」の概要について教えてください。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域における様々なイベントをこれまでどおりに実施することが困難となり、スポーツや伝統文化、職場体験等の機会が減少し子どもたちと地域とのつながりが希薄化していることから、子どもの非認知能力の成長にも支障が出ています。「子どもたちが持っている『会ってみたい』『教えてほしい』などの夢や困りごとを簡単に解決できる人が自分の住む地域にいるかもしれない、地域のつながりでその願いが叶ったら素敵だね。」との思いからこの企画がスタートしました。

子どもたちの夢を実現するためには、学校・保護者・地域・関係機関や団体の連携をより密にする必要があることから、墨田区青少年育成委員会連絡協議会が小中学校校長会・PTAの連合体に呼び掛けて実行体制を創り、「コロナ禍地域（住民・団体等）と子どもたちの「つながり」の輪を広げること》《夢を持つことが将来への目標のひとつとなり「学ぶ」ことの大切さを知る機会を子どもたちに提供すること》を

目的として、墨田区教育委員会や区内の子どもたちに関わる団体や千葉大

学と情報経営イノベーション専門職大学の協力を得て2021年5月より2022年3月末までの期間で実施しました。会場は支援者が指定する場所です。

スケジュールは5月から9月までは企画検討・準備期間とし、広報関係・投稿や閲覧用のWeb作成、10月から宣伝活動と子どもたちの夢の募集・支援者の募集・夢の実現へ進みました。

夢の実現の場面には、応募した生徒の学校のPTA会長と各地区青少年育成委員会の委員長が主として同行し、複数の学校にまたがる場合は都合が付く方が同行するようにして、保護者や子ども任せにはしないようにしました。経費については支援者謝礼と交通費を主催側の支出とし、その他については原則として参加者負担としました。

夢の募集

「夢の投稿」締切：2021年11月30日

この期間の受付
 ステップ01 → 児童・生徒が投稿サイトに夢を投稿
 ステップ02 → 地域の大人が関心し夢の実現したい夢を申し出る
 ステップ03 → 青少年育成委員会の夢の実現者と支援者が見つかる
 ステップ04 → 夢の実現者と支援者で実際に合わせた実現を目指す

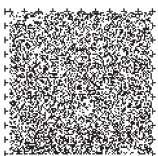
問い合わせ：墨田区青少年育成委員会及び区内小中学校PTA
 〒130-8581 墨田区東墨田1-1-1 墨田区青少年育成委員会
 TEL: 03-5621-2111 FAX: 03-5621-2112

支援者の募集

「夢の支援」締切：2022年2月28日

この期間の受付
 ステップ01 → 児童・生徒が投稿サイトに夢を投稿
 ステップ02 → 地域の大人が関心し夢の実現を依頼（投稿・支援サイトは1:1でスタート）
 ステップ03 → 青少年育成委員会の夢の実現者と支援者が見つかる
 ステップ04 → 夢の実現者と支援者で実際に合わせた実現を目指す

問い合わせ：墨田区青少年育成委員会及び区内小中学校PTA
 〒130-8581 墨田区東墨田1-1-1 墨田区青少年育成委員会
 TEL: 03-5621-2111 FAX: 03-5621-2112



2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

感染症対策として、なるべく多くの子どもたちを一堂に集めないことに主眼を置き、夢の募集はチラシ配布と区内の町会・自治会の掲示板へのポスター掲示に限定し、子どもたちからの応募と支援者の応募はWebへの投稿として、人との接触は極力避けることにしました。

また、同じ夢の応募者については、屋外で実施するものは最大参加者が7～8名のためそのまま実施し、屋内については2部制にするなど対応策を取りました。

「野球」「サッカー」「バドミントン」については支援者がプロおよびプロ並みの選手のため、応募していない子どもや兄弟姉妹の参加希望もありましたが、公平性と感染症対策のため参加を遠慮していただきました。



絵本作家になりたい



寿司をつくりたい

3 当日の実施の様子

——そうした工夫を踏まえて実施された、「すみだっ子たちの夢支援」の当日の様子について教えてください。

夢の応募人数 187名

実現者数 69名（継続中）

以下のような支援を実施しました。

①犬の散歩をしたい

- ・情報経営イノベーション専門職大学構内と八広公園で、支援者の犬とのふれあい体験をしました。



②消防士になりたい

- ・本所消防署で、はしご車や消火など消防士の仕事を体験しました。

③学校の先生になりたい

- ・区立中和小学校で、先生になるための過程を学びました。

④うどん屋さんになりたい

- ・区内のうどん屋で、店員として、注文取り、配膳、片付けの体験をしました。

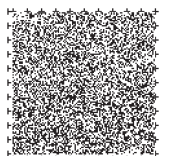


⑤バク転をできるようになりたい

- ・区立菊川小学校体育館で実施し、バク転ができるようになりました。

⑥ピアニストになりたい

- ・すみだ生涯学習センターで、ピアニストに関する質疑とレッスンを見学しました。



⑦とんかつ屋になりたい

- 区内のとんかつ店で、肉の切り方や揚げ方を教わりました。



⑧パティシエになりたい

- 向島のケーキ店で2部制によりケーキづくりを体験しました。

⑨マジックの世界一になりたい

- ネットばれ予防で場所や内容は不明ですが、ますますマジックが好きになりました。



⑩バドミントンが上手になりたい

- 調布NTT体育館で、NTTバドミントン部選手に教わりました。



⑪魚博士になりたい

- すみだ水族館で、水族館の裏側や魚について学びました。



⑫ペンギンの飼育員 (応募者1名・支援者3名)

- すみだ水族館で、水族館の裏側やペンギンについて学びました。

⑬プロ野球選手になりたい

- 後楽園屋内施設で、元中日ドラゴンズの選手にコーチをしてもらいました。



⑭サッカーが上手になりたい

- 墨田総合運動場で、フーガドルすみだの選手にコーチをしてもらいました。

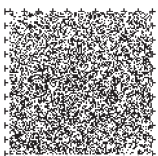


⑮マイクラフトを使い墨田区の街を作りたい

- 情報経営イノベーション専門職大学で、PC仮想空間の墨田の街づくりを体験しました。

⑯鉄道会社を作りたい

- 区立第一寺島小学校で、現職の鉄道会社員よりダイヤ編成などを教わりました。



4 参加者の反応やスタッフの感想

——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

以下のような感想がありました。

- プロのマジシャンにマジックを教わるという、考えられないことが夢支援のおかげで実現し、子どもと「生きてるとこんな素敵なことに出会えるんだね」と語り合いました。
- 有名なシェフの技を目の前で見て、一緒にケーキをつくる子どもたちの目が輝いていました。作ったケーキを家族に見せて、とても誇らし気でした。
- コロナ禍で野球の練習や試合が無くなり辛い思いをしたようですが、この企画のおかげで頑張ろうという気持ちが子どもに出てきました。
- 石川選手は分からないことをいろいろ教えてくださいました。僕も石川選手みたいなプロ野球選手になりたいです。もし、叶えられたらまた会ってください。



5 事業を通じて得られたものや課題

——そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあつたでしょうか？

以下のようなものがありました。

- 実現した多くの子どもたちに笑顔が見られ、困難な中でも実施できたことで、子どもたちの将来の夢の実現と成長につながる事を確信しました。
- 支援のあった子どもたちより、自分の夢に一步近づいたとの意見が寄せられました。
- 区内の子どもに関する関係者（地域・学校・PTA・育成委員会等）の連携が強まったことで、子どもたちの成長に対し協力関係が構築できました。
- 夢が実現できなかった子どもたちも含めて、多くの人たちが子どもたちの事を見守っていることを実感する機会になりました。
- 子どもたちが夢をもつことの大切さを知る機会になりました。

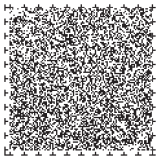
モデル指定のポイント

☆ 青少年のそれぞれの夢に沿った支援を実施しており、かつ地域のプロフェッショナルの大人たちと青少年の交流を促進している。

☆ ICTを積極的に活用し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮した上で事業を実施しており、従前実施していた地域のお祭り等に代わる形で青少年の体験を豊かにする機会を実現している。

連絡先

墨田区 教育委員会事務局地域教育支援課地域教育支援担当 【電話番号】 03-5608-6503



モデル事例2 品川区青少年対策荏原第五地区委員会

「～夏休み企画～親子で楽しもう！ えばごリアルクエスト☆」

●地区委員会の概要

品川区青少年対策荏原第五地区委員会は、青少年の健全育成を目的に区内13地区に設置された団体の一つであり、58名の委員が在籍子どもを対象に各種事業に取り組んでいます。

コロナ禍で普段の事業ができない中でも地域の子どもたちに楽しんでもらいたいという思いから、感染拡大につながらないように工夫しながら、自宅で参加できる「俳句大会」や「オリジナル缶バッジの作成」、「いちご栽培・観察記録」など、年間を通し様々な事業を実施しています。

1 事業の概要

——今回モデル事例に指定された、「～夏休み企画～親子で楽しもう！えばごリアルクエスト☆」の概要について教えてください。

新型コロナウイルスの影響により例年開催していた地域事業の中止が相次いだことを受け、子どもたちに新型コロナウイルスの感染を気にせず地域のことを楽しみながら知ってもらうため、新規に事業を企画しました。

令和2年度にオンライン事業の第1弾として実施した、自宅にいながらゲームへアクセスするオンライン参加型の「おうちで楽しもう！荏原第五お家で地域くえすと☆」に続き、令和3年度にはその第2弾として、実際に（リアルに）地域へ足を運び自分の住むまちをまわってもらう「リアル版」として事業を展開しました。ゲームのシステム開発には、品川区内で既に活動実績がありICTを使った事業を展開するボランティア団体「MASH&ROOM（マッシュ&ルーム：通称キノコ）」の協力を得ました。

令和3年8月16日～8月31日までの約2週間、ゲームのプレイ期間を設け、期間中であれば自分の好きなタイミングでゲームに参加することができるようになりました。参加者は主に、自宅およびゲームスポットである区設置の掲示板前でゲームをプレイし、期間中は、50組を超える親子が参加しました。自粛ムードで自由

に外出ができない日々が続く中、親子で地域をまわり夏休みの思い出づくりの場を提供することや、自分の住む地域についてよ

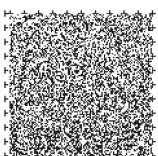
り一層知ってもらうことを目的としています。

事前準備では、ゲーム中に出題するクイズ内容の考案およびミッションスポットの選出（地区委員）、ゲームのシステム開発（MASH&ROOM）、本番前のゲームデモンストレーション（地区委員・MASH&ROOM）、参加賞および賞品の購入やラッピング作業（地区委員）を行いました。

周知・広報では、管内の掲示板への周知ポスター掲示、管内の学校へのちらし配布およびポスター掲示、地域センターホームページでのイベント告知を行い、参加者の募集に努めました。また、事業の詳細やイベント開始までの案内については、MASH&ROOMのホームページ内に開設したイベントページから発信しました。

ゲームの流れについては、まず、参加希望者は地域センターで冒険のヒントとなる「導きの書」を受け取り、クエストゲームをスタートしました。期間中は管内にある10のミッションスポット（区の掲示板に貼り付けてあるQRコード）をまわり、出題されるクイズやゲームなどのミッションに挑戦しました。また、ゲーム中には突然モンスターが出現し、参加者は敵を倒すためのミニゲームでレベルアップを狙いました。イベント開催期間終了後は、これらのコンテンツにより獲得した得点やメダル等から参加者の成績を集計し、上位成績者および特別賞を発表しました。結果はイベントホームページおよび学校へのポスター掲示で周知し、参加者全員に参加賞や賞品を渡しました。

地区委員は、地域に関するクイズの作成やQRコードを貼り付けた掲示板の管理等を行い、ゲームの作成やシステム不具合の対応はMASH&ROOMが行いま



した。関係団体や参加者との連絡調整や、イベント期間中の問い合わせ窓口、ゲーム結果集計、賞品授与は事務局（荏原第五地域センター）が担当しました。

2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

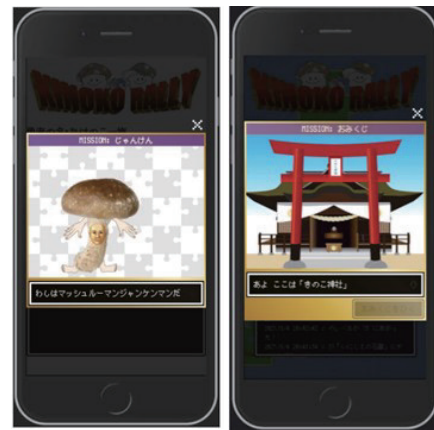
——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

新型コロナウイルス感染対策の観点から、可能な限り主催者側と参加者との接触が少なくなるようにしました。参加者同士についても、イベントを一日開催ではなく期間を設けて開催することで、人と人との接触をできる限り減らすとともに参加者がそれぞれのペースでゲームをプレイできる体制を整えました。また、参加賞と賞品の配布期間も一週間設け、参加者の来所が分散するようにしました。イベント終了後のアンケートは紙面での提出ではなく、電子申請を用いました。

本事業では参加者が同時に集まる機会を設けませんでした。個人のゲーム画面上で他参加者のゲームのプレイ状況を流すシステムを導入し、一緒に冒険の旅に出てミッションに挑戦しているという一体感の共有を図りました。



プレイヤーのゲーム画面



ミッションの様子
(左: じゃんけん、右: おみくじ)



「導きの書」(左: オモテ、右: ウラ)



ミッション QR を読み取る姉妹

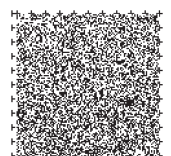


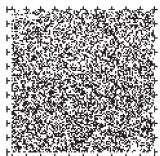
ミッション QR を読み取る親子

3 当日の実施の様子

——そうした工夫を踏まえて実施された、えびごリアルクエストの当日の様子について教えてください。

参加希望者にはイベント開始までに、エバーランド（ゲーム中の荏原第五地区）の地図やミッションスポットのヒントが書かれた「導きの書」を事前に荏原第五地域センターへ受け取りに来てもらいました。イベント期間が始まると、自分の好きなタイミングで「導きの書」に記載のオー





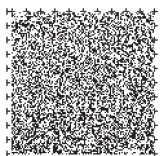
プニング QR をスマートフォンやタブレット等で読み取ってからクエストゲームを始めます。システムにはイベント初日から多くのアクセスがありました。

ミッションの QR コードは管内にある 38 の掲示板のうち町会ごとの 10 スポットに貼ってあり、参加者は該当の掲示板を探しながら地域を巡りました。ミッションの QR コードを見つけたらスマートフォンやタブレット端末で読み取ってミッションに挑みます。ミッションの内容は、「クイズ・大喜利・おみくじ・間違い探し・絵しりとり・じゃんけん」など場所によって様々です。ミッションにチャレンジすると「ゴールド・シルバー・ブロンズ」いずれかのメダルをゲットすることができ、ゲームの成績はこのメダルの数や色をもとに決まります。参加者はゴールドメダル 10 個の獲得を目指し、一生懸命ミッションにチャレンジしている様子でした。

ゲームスタート時には全員共通で「旅人」キャラクターから始まりますが、旅をする中で得た経験値やレベル、ゲットした旅のアイテムによって旅人から「バトルマスター・白銀の僧侶・天神天女」など 11 種類いずれかの職業に変身することができます。旅は好きなタイミングで終わることができ、「導きの書」のエンディング QR を読み取ってゲームの記録を残すと、ゲーム成績が自動的に送信されゲームのクリア数や経験値などに応じて成績が決まります。成績については総合得点上位のほか、「たくさんの種類の敵キャラクターを倒した!」「1 番初めに冒険に出た!」「大喜利の面白いセリフ!」などの特別賞を用意しました。ゲーム終了後にはオリジナルの音楽とともにエンディング映像が流れ、旅の思い出を振り返ることができます。

賞品にはネッククーラーやうきわ、ひんやり枕など夏をイメージしたものを多数用意しました。参加賞にはコロナの影響で中止になってしまった夏祭りの気分を少しでも味わってもらえるようにと、「荏原第五区民まつり」と題した駄菓子の詰め合わせを配りました。また、参加者それぞれに旅で獲得したメダルや変身した職業が記録された「旅人認定証」もお渡ししました。

イベント期間が夏休みであったこともあり、親子や友達同士で掲示板をまわっている参加者の様子が多く見受けられました。ゲームのプレイ状況からは、参加した子どもたちが連日ミッションにチャレンジしている様子が見受けられました。参加者の中には、クリアできなかったミッションスポットに再び足を運び、メダルが上のランクに



上がるまで何度も挑戦している方や、日によってミッション内容が変わるデイリーイベント（「導きの書」から参加可能）で毎日欠かさずミッションに挑戦し、経験値を上げるために頑張っている方もいました。

上がるまで何度も挑戦している方や、日によってミッション内容が変わるデイリーイベント（「導きの書」から参加可能）で毎日欠かさずミッションに挑戦し、経験値を上げるために頑張っている方もいました。

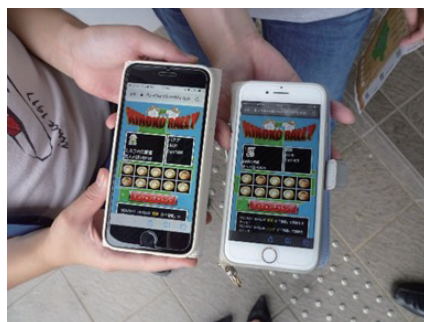
真夏の暑い中全 10 町会の掲示板をすべてまわるのはかなり大変ですが、皆さん熱中症や交通安全に気をつけながらゲームに取り組んでいる様子でした。参加した親子からは「猛暑や雨など天候に恵まれない日もありましたが、涼しくなった夕食後や涼しめの日に家族で散歩やサイクリングを兼ねて周遊でき、運動不足を解消することができた」「クエスト仲間と思われる親子連れを何度も見かけ、暑い中めげそうになりましたが励みになった」との声がありました。掲示板の場所がわかりづらかったり地域に関するクイズの答えがわからなかったりした際には、近所の人や地域の知り合いに聞きながら参加する様子も見受けられ、本事業が地域に住む人同士のつながりを生むきっかけとなりました。



変身後の職業 11 種類



「旅人認定証」
(上：オモテ、下：ウラ)



メダル 10 個を揃えたプレイヤー画面



参加賞配布の様子



結果発表掲示の様子

4 参加者の反応やスタッフの感想

——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

参加した児童からは「楽しく地域のお散歩ができた」「夏休みの最後をクエストで終わることができ、とても楽しい思い出になった」との声が、また保護者からは「遊びに行けない日が続いていたため、子どもたちの笑顔が見ることができて嬉しかった」「ゲームの完成度が高く、最後まで親子楽しく遊ばせてもらえた」との感想がありました。

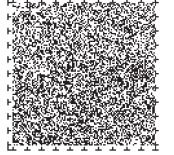
地区委員からは「例年どおりの事業ができない状況が続いていた中、何かできることはないかと工夫を凝らした結果、地域の子どもたちが楽しめる新たな事業を開催することができた」との感想がありました。

モデル指定のポイント

- ☆地区委員会が選定した地区内のスポットを巡るゲーム形式を採用することで、青少年が楽しみながら家族と一緒に地域社会への理解や親しみを深めることができています。
- ☆コロナ禍により青少年が一堂に会するイベントが制限される中であっても、ICTを活用し、家庭内での新たな交流や、オンラインでの青少年の共通体験の機会を創出している。

連絡先

品川区 荏原第五地域センター 【電話番号】 03-3785-2000



5 事業を通じて得られたものや課題

——そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったでしょうか？

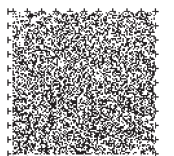
集団での外出や遊びが制限される状況においても、子どもと保護者が一緒に過ごせる時間を創出することができました。さらに、親子で協力して物事に取り組むことで親子間のコミュニケーションを促進し、子どもたちの体験を豊かにする活動を実現することができました。

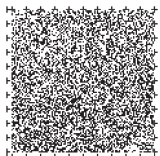
今回のクエストを含め、コロナ禍になって新たに実施した事業はいずれも、例年に比べると地区委員の役割が少ないということが現状の課題だと捉えています。今後はより多くの地区委員が様々な場面で事業に関わっていただけるようなやり方を検討していく必要があると考えます。

6 終わりに

——最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

本事業への参加を通じて、子どもたちは友達や兄弟と一緒に、もしくは親子で地域を巡るといった「連帯感」や、ミッションコンプリートを目指し最後までゲームに取り組む「自主性」などが得られたのではないかと感じます。今後もコロナ禍における新しい日常の中で工夫を凝らしながら、『元気！ 勇気！ 輝け荏五の子どもたち』のスローガンのもと事業を展開していきたいと思えます。





「我が町探検！防災ウォーキング」

●地区委員会の概要

区内 18 地区に青少年健全育成地区委員会があり、主に以下の3点を中心にそれぞれ地域の特色を活かした活動を行っています。

- ・「青少年の地域活動」：地域での交流や地域社会に関わりをもった奉仕活動等
- ・「スポーツ野外活動」：スポーツを通じて、仲間づくりやルールを守ることを学び心身ともに健全な育成を図る
- ・「地域社会環境浄化活動」：青少年が地域で安心して生活できる環境づくりを家庭、地域、学校が連携して行う

1 事業の概要

——今回モデル事例に指定された、「我が町探検！防災ウォーキング」の概要について教えてください。

当事業は、東日本大地震の際に、被災地で活躍する中学生の姿に頼もしさを感じ、当地区においても地域に貢献する人材の育成とともに防災意識の向上を図ろうと「防災デイキャンプ」という名で始めました。

中学生が運営に携わり、当初は各種防災訓練を行っていましたが、令和元年度より、地域内を歩きながら日頃の防災への興味をもつきっかけ作りを目的として「防災ウォーキング」という名に変わりました。

また、コロナ禍においては、屋外で参加者同士の距離を取ることができるため、感染対策が可能な事業であると判断しました。

●実施日、実施場所

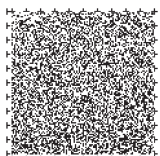
令和3年12月5日（日）

板橋区立志村第五小学校及びその周辺（公園）

熱中症対策及びマスクをしても息苦しくない時期を選定しました。

●事前準備、周知、広報、事業内容

当事業は、地区内の区立小学校を拠点に、参加者が地域内を歩きながらレクリエーションを体験するというものですが、通常のウォークラリーとは異なり、日頃の防災への興味をもつきっかけをつくるのが目的であるため、コースや各チェックポイントで行うクイズ、ゲーム内容についても、自分たちの住む地域のどこに防災



用具や関連施設があり、どのような使い方や意味があるのかといったことに重点を置きました。事前準備では、この点を踏まえ、実行委員で数回歩き、コースの選定と打合せを繰り返し行いました（令和3年度はコロナ禍により中学生の協力参加は見送りました）。

また、参加者募集に関しては、学校の協力を得て全児童にチラシを配付しました。コロナ禍での開催となり、子どもだけでは参加に不安を感じる可能性があるとの意見もあり、親子での参加を条件とし（1家族4人まで）、家族でコミュニケーションを取りながら地域を歩いてもらいたいという意図も含めて募集を行いました。

その他、日頃の備えについて意識向上を図るため、参加者記念品として非常用保存食を配付することにしました。

2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

- ・募集チラシに「事前の検温」、「健康状態の確認」、「マスク着用での参加」などを記載して、参加者に対して注意を促した上、当日においても検温の実施と消毒液、マスクなど（忘れた方用）を用意しました。
- ・想定より参加者が多く集まったため、密にならないよう2コース分（時計回りと反時計回り）を用意し、スタート地点を二つに分けて、出発時間も間隔を開けてスタートさせました（中間地点では双方向から参加者が密集する恐れがあったため、クイズやゲームを省略

し、通過確認のみとしました)。

- 時計回りコースと反時計回りコースの参加者を、それぞれ区別できるよう色紙を使って色別にコースマップ及びクイズの解答用紙を作成しました。
- 各チェックポイントでのクイズやミニゲームでは、物に直接接触しないよう感染対策が可能な内容にしました。

3 当日の実施の様子

——そうした工夫を踏まえて実施された防災ウォーキングの当日の様子について教えてください。

当日は、天候に恵まれ、温かい日差しの下で開催することができました。

実行委員は、全体で情報共有を行うことができるよう事前にグループLINEを作成し、適宜状況報告を行うこととしました。

開会式前には、各チェックポイントへ移動して準備を開始し、早速グループLINEには、各所設置状況の写真とともに準備完了の報告が流れました。

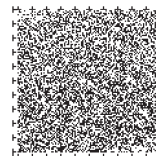
スタート地点となっていた小学校は、時間が経つにつれて家族連れで賑やかになり、知り合いの家族同士では「今日がんばろうね！」などのエール交換が行われ、和やかな雰囲気スタートしました。

参加者にはビブスの着用をお願いし、ビブスの番号は受付番号と同じにすることでチェックポイントでの通過確認や参加者が道に迷った際に実行委員が対象者を特定しやすいようにしました。また、ビブスの色を分けることで時計回りコースと反時計回りコースの区別がつきやすいようにしました。

参加者が持つコースマップには、防災に関するキーワードが書いてあり、「街頭消火器」、「土のうステーション（区では水害対策のために区民が自由に使用できる土のうを地域に設置しています）」、「災害用トイレ」、「ス



コースマップのキーワードの一つ「災害用トイレ」



公園に設置されているスタンドパイプとその説明

タンドパイプ」など、実際にコース上に存在しているものを探しながら次のチェックポイントまで歩き、そこでクイズが出題されるので、子どもたちはワクワクしながら参加できたようです。

また、防災に特化するだけでなく、様々なミニゲームも用意し、子どもたちが楽しめるよう工夫をしました。ゲームとクイズの成績が最終的に賞品獲得につながるという要素もあったので、全体を通して楽しんでいる様子でした。

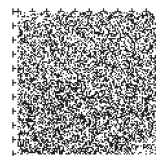
ゴールした際には、参加賞である非常用保存食と、クイズの解答及び防災用具の使い方や施設の意味を記載した解説書を渡しました。それを見ながら「あー、この道には〇〇が□個あったのかー」、「こんなところに●●あったけ？」などと親子で会話をしながら、しばらく話し込んでいた姿が印象的でした。

4 参加者の反応やスタッフの感想

——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

コロナ禍において自宅で過ごす時間が多かったためか、参加者からは久々に運動ができて良かったという声が多くあり、ゲームやクイズについても、よく考えられていて解答しやすく、親子で非常に楽しめたとの感想がありました。

また、地域内を歩くことで今まで知らなかった道や新たな公園を知ることができ、防災用具の場所も改めて知ることができたとの声があり、当初の目的を達成できたよ



うに思います。

実行委員からは、距離の長さを心配していたが、参加者は元気そうでゲームも盛り上がっていたという感想と、グループLINEにより情報共有できたことは良かったという意見がありました。

5 事業を通じて得られたものや課題

——そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったでしょうか？

日頃の防災への興味、きっかけづくりに重点を置いているため、参加者はクイズやゲームをしながら気軽に参加できることがこの事業の特徴です。

参加者の感想にもあるように、防災意識とともに自身の住む地域を再認識できる機会を設けることができたことは良かったと感じています。また、地図を見て歩くということが少なくなってきた世の中において、貴重な体験を設けることができたのではないかと考えています。

一方で、当初の事業開始のテーマである「地域に貢献する人材の育成及び防災意識の向上」については、なかなか定着・継続することができていないという課題があります。

これからの担う世代に、どのように防災意識を根付かせ、自ら行動できる人材に育成することができるか、今後も当地区委員会では検討してまいりたいと思います。

6 終わりに

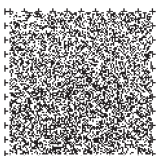
——最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

当事業は、区内を3つの地域に分けて、1年ずつ場所を変えながら行ってきました。

場所が変われば、道や地形、備え付けられている防災用具も変わるため、改めて地区委員会中心に、どのように防災の意識づけができるか検討し、また、次世代を担う人材を育成するため、中学生とともに企画運営を行っていきたいと考えています。



参加者の様子





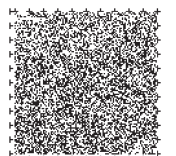
配布したチラシ

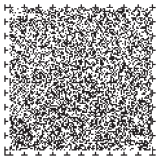
モデル指定のポイント

- ☆青少年が自分の住む地域を再認識する機会を設け、ゲーム感覚で気軽に防災意識を高められるよう工夫している。
- ☆複数のコースを設定したり各グループの参加時間を細かく割り振ったりする等の工夫により、「新しい日常」を踏まえつつ家族単位の参加を促進し、青少年だけでなく大人の防災意識も向上させ、運動不足の解消やストレス発散にもつながっている。

連絡先

板橋区 区民文化部地域振興課中台地域センター 【電話番号】 03-3932-9990





モデル事例4 練馬区青少年育成第八地区委員会

コロナ禍のストレスを解消 「なぞとき」で頭の体操をしてみませんか！ 「謎解きゲーム『第八版 北町の刃 なぞとき編』」

●地区委員会の概要

練馬区青少年育成地区委員会は、区内の旧17出張所を単位に組織されています。町会、PTA、青少年委員など地域のボランティア約2,200名が青少年育成地区委員として、地域の特色を生かした活動に取り組んでいます。

地域の子どもたちの自主性や社会性を育むため、各地域の子どもたちを対象に、キャンプ、潮干狩り、スポーツ大会、自転車安全教室、地域の清掃活動など様々な事業を行っています。

1 事業の概要

——今回モデル事例に指定された、「謎解きゲーム『第八版 北町の刃 なぞとき編』」の概要について教えてください。

都内区部の中でも史跡や昭和の建造物が比較的多く残っている練馬区北町地区のボランティア団体が令和2年度に実施した「地域版なぞときイベント」をヒントに、同様な事業ができないか検討したことがきっかけでした。

当初は、非接触・非集合型の事業として、児童が個々に地域へ出かけ、ラリー形式でなぞを解くことを想定した「地域のなぞとき」のような事業を想定していました。

その後、具体案を作るため、当地区委員会副会長で北町小学校PTA会長に、前述した「地域版なぞとき」をアレンジしたものを、令和3年度企画事業として立案していただけないかと依頼しました。

実際に子育て真最中であるPTA会長が役員や保護者の方々の様々な意見を取り入れながら、コロナ禍においても子どもたちが楽しく安心してチャレンジできる事業内容について検討を重ねた結果、学校内の複数教室を会場とした参加型事業としての当初案がまとめられました。

当地区委員会役員会においても、その案について従来型にはない独創的なものだとの評価が高く、ぜひ実施したいとの方向で意見がまとまりました。しかし、実施の段階で新型コロナウイルス感染が思ったほど収まらない状況だったた

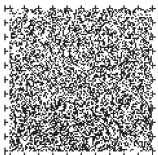
め、やむを得ず非接触型の事業内容に変更しました。この事業をより子どもたちにアピールするために、子どもたちに人気のある漫画キャラクターロゴを想像させるオリジナルロゴを考案したり、各学年の先生たちに紙面に登場していただくなど、学校長はじめ学校全面協力のもと、「書面クイズ形式」の事業として実施することとしました。

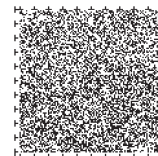
- 実施場所 練馬区立北町小学校
- 対象者 全児童 約720名
- 問題配付 令和3年11月17日(水)
- 正答掲示 令和3年12月11日(土) 各教室
- 事業内容

当地区委員会育成部会での令和3年度事業原案は、北町小学校の特別教室・体育館などに、様々な謎が仕掛けられており、子どもたちはその謎を次々と解き、合言葉を伝え、最終問題に正解すると宝物をゲットできるという参加型の内容でした。

しかし、新型コロナウイルス感染が拡大したため、3密の回避、新型コロナウイルス感染症への安全面を考慮して、非接触型事業に内容を変更せざるを得なくなりました。変更後は、北町小学校PTA役員の方々が小学校1年生から6年生までの全児童が楽しめる謎解き問題冊子原稿を作成しました。当地区委員会では、この問題冊子や参加者全員に配付する記念品(人気漫画風デザインの鉛筆)を同封できる配付袋を作成し、各学級担任の先生から全児童に配付しました。数週間後、校内や各教室に正答を掲示し、答え合わせを行いました。

委員に対しての周知は、令和3年度当初に年間事業





計画書を当地区委員会の全委員に配付しました。実施に当たっては、学校長、PTA 役員との打合せを幾度も行いました。特に教職員の方々の事業への関心度が高く、児童への謎解き問題の配付時には、事業の目的を各担任から児童に対し丁寧に説明を行っていただきました。児童に対しての広報がうまくいったポイントは、学校（教師）と当地区委員会が一体になって取り組んだ結果と考えています。

2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

コロナ禍のため、練馬区青少年課が策定した感染症対策ガイドラインに沿って、その都度、事業実施時点での感染状況を踏まえ、事業内容の見直しを行いました。具体的には、非接触と非集合を徹底することができました。

3 当日の実施の様子

——そうした工夫を踏まえて実施された、「なぞときゲーム」の様子について教えてください。

著作権に十分配慮した上で、児童に人気のあるキャラクターのイメージを踏襲したデザインの冊子にする等の工夫により、児童が楽しんで企画に取り組む機会を提供することができました。

北町小学校 PTA 役員の皆さんが従来の集合・飲食・接触型のような事業概念にとらわれることなく、現時点で育児に携わっている立場で子どもたちが今一番関心のある事象を的確にとらえると共に、身近に接している複数の先生に事業参加していただいた結果、単なるクイズイベントに終わらなかったと評価しています。

コロナ禍の中で、子どもたちが安全に参加できる事業というだけでなく、いろいろと制約を受けている日常の中でも友達同士や家族も含めながら、小学生にはやや難しい程度のクイズに楽しくチャレンジすることによって、閉塞感を打破する一助になったのではないかと考えています。また、企画及び原稿作成から帳合い作業など一連の作業について、委員でもある若い PTA の方々に関わることにより、自立した委員会活動の達成に一步近づくことができたのではないかと考えています。

4 参加者の反応やスタッフの感想

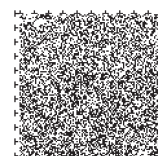
——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

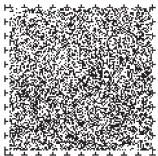
コロナ禍でも、子どもたちからは大好評！「問題もつとやりたい」「お父さんと一緒に考えた」「正解者には賞品は？」など楽しい話題で校内は大いに盛り上がりました。

委員会関係者のひとりが、地区区民館に来ていた複数の子どもに対し「学校のクイズはどう？」と問いかけたところ、一斉に「あの答えは〇〇だよ！」「違うよ〇×だよ」などと子どもたちの機敏な反応から、驚くほど好評だったことが伺えました。



みんなで協力して問題を解く児童たち





5 事業を通じて得られたものや課題

—そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったのでしょうか？

当初、謎解き問題を作成するに当たり、出題者として人気漫画キャラクターを使うことを考えました。しかし、著作権等のハードルがあるため断念し、教職員の顔写真を使うことになりました。逆にこのことが功を奏し、児童にとっての親近感が湧いたようでした。

長いコロナ禍のため、子どもたちの日常生活が制限されていることによる不満や閉塞感がありましたが、この事業によって一時的に緩和されたと考えています。

今後、本事業の改善したい点としては、謎解き問題を学校を含め、更に周辺地域に困んだものとして採り上げたいと考えています。また、コロナ禍が収束した際は、次の方法での実施も視野に入れて検討していきたいと思っています。

- ①当初の予定であった「校内各特別教室を周遊する」方法
- ②北町地区でスポットを決めて、スタンプラリー方式で実施する方法

6 終わりに

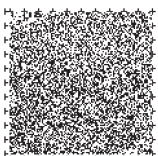
—最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

コロナ禍のため、従来の接触型事業に代わるものとして企画したところ、児童が問題の冊子を家庭に持ち帰ることで、各家庭間に共通の話題を提供することができ、児童と児童の間に新たな繋がりをつくる機会となりました。

北町小学校は、令和4年度に開校70周年を迎え、そのテーマ「ディスカバリー北町、そして未来へ」をキーワードに、令和3年度と同様に問題を全児童に配付して実施しました。

モデル指定のポイント

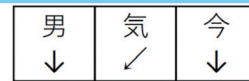
- ☆小学校やPTAの協力を得たり、著作権に十分配慮しつつ、謎解き問題の冊子に人気の漫画のモチーフを用いたりする等、青少年が親しみやすい形で家族や友達との共通体験を形成することができている。
- ☆新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を変更するなど柔軟に対応し、青少年のストレス軽減や交流促進の一助となっている。



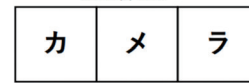
連絡先

練馬区 教育委員会事務局 こども家庭部 青少年課 青少年係 【電話番号】 03-5984-4691

なぞ1 ●●先生からの問題



上の答えが



のとき、これはなに？答えは漢字で書きましょう。

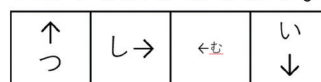


【柱からヒント】

頑張ってくださいね！一番応援しています！カタカナが隠れていますね！ <実際の問題>

なぞ2 ●●先生からの問題

下の暗号を解きましょう。



【こたえ】



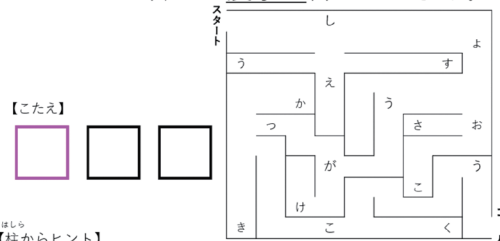
【柱からヒント】

- ・ひらがなで4文字
- ・青くてとても大きなもの

<実際の問題>

なぞ3 ●●先生からの問題

めいろで通った文字を読み、
答えを漢字で書きましょう。



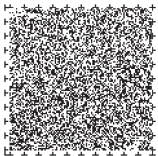
【柱からヒント】

ゴールできるかな？ し ⇒ よ ⇒ う ⇒ …

<実際の問題>

北町小学校を支える「柱」である先生たちから出題された問題

(答え：なぞ1・年始、なぞ2・ちきゅう、なぞ3・小学校)



モデル事例5 武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会

「CAP（キャップ）ワークショップ」

～こころの避難訓練～

子どもがあらゆる暴力から“自分で自分を守る”ための参加型学習プログラム

●地区委員会の概要

武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会は、武蔵野市の市立小学校の12の学区ごとに設置されている地区委員会の一つです。青少年の健全育成のために様々な活動に取り組んでいます。「むさしのジャンボリー」や美化活動のほか、第三地区委員会独自に、夏祭りの「吉祥寺南町カーニバル（共催行事）」や昔あそびを取り入れた「どんど焼き」を武蔵野市立第三小学校校庭で開催。子どもたちの心に残る地域の行事を大切にしています。

1 事業の概要

—今回モデル事例に指定された、「CAPワークショップ」の概要について教えてください。

武蔵野市では、子どもの健全育成事業の一環として、市の呼びかけに応じ各地区委員会が任意で「CAPワークショップ」を実施しています。第三地区委員会ではこれに初期から積極的に取り組んできました。当初は希望者を対象に放課後に行っていましたが、平成21年度からは小学校との連携により授業時間内に学級ごと（対象：3年生児童）に実施しています。子どもたちがCAPの基本にある「子どもの人権」についてクラス全員で理解を共有できることが学習効果の向上につながっています。

CAPとは、Child Assault Preventionの略で「子どもへの暴力防止」という意味があります。もとは1978年にアメリカのオハイオ州で始まった、子どもがあらゆる暴力から自分を守るための参加型学習プログラムです。痴漢、誘拐、虐待、性暴力、いじめなど、子どもを取り巻く暴力は残念ながら後を絶ちません。そして、そのほとんどは見えない場所で行われます。

暴力の怖さは、被害者が自責感や罪悪感にとらわれて自分の心を追い詰めてしまうことにもあります。「自分がちゃんとしていれば」「人に知られたくない」そんな思いが被害を言い出しにくくさせ、対応が遅れてしまうことも少なくありません。小さな子どもが強い力

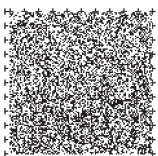
や集団の力に腕力で立ち向かうことは至難の業ですが、自分で自分を守る“知識”を持つことはできます。例えば日頃から避難

訓練をしていれば、災害に遭っても身を守る行動がとれます。私たち第三地区委員会では、CAPを「こころの避難訓練」と位置付け、子どもたちが暴力に遭いそうになったとき、遭ってしまったとき、一人で悩むことなく、適切な行動をとるための“知識”を身に付けられるよう、ワークショップを年1回実施しています。

CAPで自分を守るための知識の根底にあるのが「人権」の考え方です。子どもにとってはちょっと難しい言葉ですが、ワークショップでは「人が生きていくのにどうしても必要なもの＝けんり」と説明しています。そして、食べること、寝ること、トイレに行くことと同じように、人には「安心・自信・自由」をもつ権利があるんだよと伝えています。CAPワークショップでは、暴力とは「安心・自信・自由」をとられた状態だと覚え、もしものとき、すみやかに大切な3つの権利を守る具体的な行動を学びます。



「人にはみんな大切な3つのけんりがあるよ！」



2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

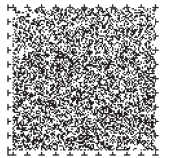
児童向けのワークショップは、教室よりも広い会議室を使用し、ファシリテーターとの距離を保つとともに、児童が密集しないよう配慮して行いました。

また、児童とは別の機会を設け保護者向け講座も開いていますが、令和3年度は感染対策でオンライン開催としました。保護者向け講座は希望者を対象としているため、共働き家庭の増加とともに近年参加者が減少傾向でしたが、オンライン開催でリモートワークの合間に参加できたという声も聞かれました。本来は対面のほうが学習効果は高いため、令和4年度は校内での実施に戻りましたが、今後の非常事態にも柔軟に対応できそうです。

3 当日の実施の様子

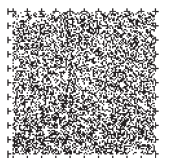
——そうした工夫を踏まえて実施された、「CAPワークショップ」の当日の様子について教えてください。

令和3年度は7月6日(場所:武蔵野市立第三小学校)に行きました。私たち第三地区委員会では、CAPワークショップの進行を「NPO 法人〈青い空〉」に依頼しています。当日は1学級2時限ずつ、3人のファシリテーターによるロールプレイ(役割劇)を見て、子どもたち自身が意見を出し合いながら学びます。暴力の場面は子どもたちを怖がらせないように配慮された演出になっているのが特長です。また、友達の力を借りていじめを先生に相談に行く場面では、児童や担任の先生も劇に参加するなど、全体の雰囲気として楽しく活気ある学習タイムとなっています。



■ワークショップの流れ

テーマ	内容
権利とは？	安心・自信・自由の権利
子ども同士の暴力	■いじめの場面ロールプレイ (かばんを持たされる設定) ・人の権利を取らずに自分の権利を守る ・「いや」と言う/友達の力をかりる ・話す/相談は告げ口にはならない
知らない人からの暴力	■誘拐・連れ去りの場面ロールプレイ ・うそをついてだます人がいる ・知らない人に自分のことを話さない ・知らない人とは安全な間隔をとる ・逃げる ・簡単な護身術を覚える ・特別な叫び声 ・知らない人の特徴を覚える
知っている人からの暴力	■性暴力の場面ロールプレイ (ゲームを貸してあげるからキスさせてと言われる設定) ・安心なざわり方といやなざわり方 ・口止めされても怖い秘密は話していい ・あきらめないで信頼できる人に話す
話すことのモデル	■先生に相談する場面
トークタイム	希望する子どものみ、個別にファシリテーターと話す時間を持つ
担任の先生との振り返り	トークタイムの内容を必要に応じて適切に連携するなど



■大切な3つの権利を守る行動



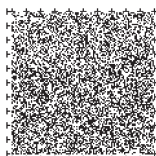
4 参加者の反応やスタッフの感想

——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

ワークショップがあった日、さっそく友達から「先生に伝えてほしい」と相談を受けた児童がいたそうです。保護者はそれを聞いて担任の先生に連絡し、あとは先生に委ねたとのことでした。詳しい内容はわからないので、もしかすると些細なことだったかもしれませんが、しかし、ファシリテーターの方のお話では、小さなことでも周囲にきちんと受け止めてもらえたという成功体験が自信となり、この先も暴力に対して自分を守る力につながるそうです。子どもの悩みを大人の感覚で決めつけず、まるごと気持ちを受け止めてあげることが大切なのだと実感しました。



ロールプレイを通して、感じて、考える参加型学習



5 事業を通じて得られたものや課題

—そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあつたでしょうか？

前述の感想にも述べたように、子どもが相談するには、周囲の大人の日頃の対応が問われます。その“気づき体験”が「おとなワークショップ」には盛り込まれています。【おとなの“気づき”抜粋】（参加者アンケートより）

- 大人と子どもの感じ方には差があるので、つい「たいしたことない」「大丈夫」と言い聞かせてしまうことがありました。これからは目線を同じにして話したいと思いました。
- 子どもの安心・自信・自由を守るために、まずはあなたが安心・自信・自由でいてくださいと言われ、救われた気がしました。
- 子どもが相談できる存在になり、家庭がリラックスできる場所であるよう、親も気持ちに余裕をもっていたいです。

CAP ワークショップでは、子どもは大切な権利の守り方を学び、大人は子どもの受け止め方をあらためて考えます。たった1回のワークショップでも、そこで得た知識と気づきは折に触れ生きてくることでしょう。

6 終わりに

—最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

子どもは年齢が上がるとともに、親の目の届かないところで様々な体験をして成長していきます。危険な目に遭わずに過ごせることが一番ですが、もしもに備えることは大切です。防犯対策に留まらない、意識の持ち方を学べる“こころの避難訓練”を今後も継続して実施していきたいと考えています。



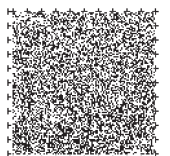
保護者や地域住民向けの「おとなワークショップ」
※コロナ禍の前の写真です。

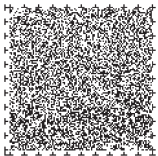
モデル指定のポイント

- ☆いじめや子どもへの暴力防止という青少年の健全な育成を図る上で重要な現代的テーマを、小学校と連携し長年にわたり継続することで、地域に成果が浸透している。
- ☆一部のワークショップをオンラインで実施する等、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための工夫がされていて、長年続けてきた事業を途切れさせることなく継続できている。

連絡先

武蔵野市 子ども家庭部児童青少年課 【電話番号】 0422-60-1853





モデル事例6 国分寺市青少年育成南地区委員会

「平和への願いを込めて折り鶴を折ろう」

子どもから子どもへ伝えたい 戦争とは何かについて

●地区委員会の概要

国分寺市青少年育成南地区委員会は、市内中学校区ごとに5地区ある委員会の一つです。毎月第一日曜日に子どもでもできるボランティアとして公園清掃「いろいろボランティア」、親子で手持ち花火を楽しむ「親子で花火大会」、消防署員の指導による防災訓練や炊き出し用なべで作った豚汁や災害用アルファ米の昼食と公衆電話体験「防災体験」、紙と割りばしで「紙ヒコーキづくり」など、身近な場所で楽しくするための行事を実施しています。

1 事業の概要

——今回モデル事例に指定された、「平和への願いを込めて折り鶴を折ろう」の概要について教えてください。

子どもたちは、戦争や平和について教わる機会が少なくなっています。素直な子ども時代に戦争の実態について考える機会をもつことが大切だと思い、子どもたちに馴染みのある絵本を通して戦争や平和の大切さについて伝えたいと思いました。国分寺市では、毎年折り鶴を募集し、千羽鶴をピースメッセンジャーが広島へ届けています。その折り鶴が多く集まるよう協力したいとも思いました。

・実施日

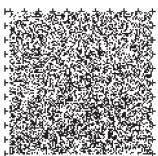
令和3年7月11日(日) 10:00～11:30

・実施場所

国分寺労政会館(新型コロナウイルスの感染が収まらず小学校の会場を直前で借りることができなくなり、会場探しに奔走しました。12月から半年以上かけ準備を重ね、コロナ禍で体験する機会も少なくなり、中止は避けたいと、急遽時間と場所を変更し、会場を確保しました。)

・事業の目的

子どもたちに戦争の真実と平和の尊さを伝えたいとの思いからスタートしました。戦争や平和についての絵本の読み語りを通し、互いに語り合い、平和への願いを込めて折り鶴を折ります。戦争を知ることと平和であることの尊さがわかります。戦争では、人間が殺されます。戦争を起こさないようにすることは、自分達一人一人の意志の問題であるということを理解し、自分の頭で考え行動



できる人間に成長してほしいと思います。「読み聞かせ」ではなく、心に届くように「読み語り」ます。

・事前準備

読み語り手を募集するために、地区の中学校を訪問。校長先生等に活動の意義を説明し、参加者募集のチラシ配布を依頼しました。応募のあった中学生等とともに、前年度の12月から会の振り返りを含め6回集まり、テーマを何にするか、絵本の選定、絵本の語りの練習、絵本の順番の検討等、議論を重ねました。様々な絵本を通して学習を積み重ね理解を深めることで、説得力のある読み語りとなっていきました。内容の検討をみんなで行っていき、子どもも大人も互いに成長する場になりました。

・周知・広報

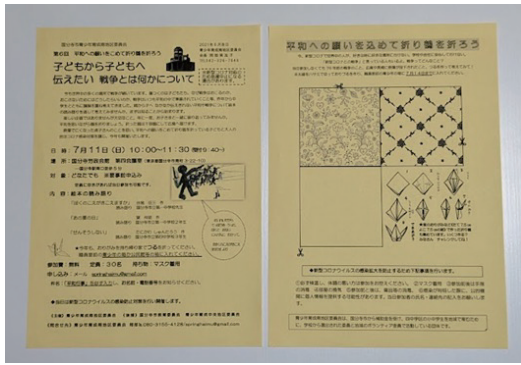
地区内の小中学校にチラシを配布するとともに、児童館や公民館、近隣の商店にチラシ配架や掲示を依頼しました。市報、社会福祉協議会のホームページでも周知しました。

・事業の流れ・内容

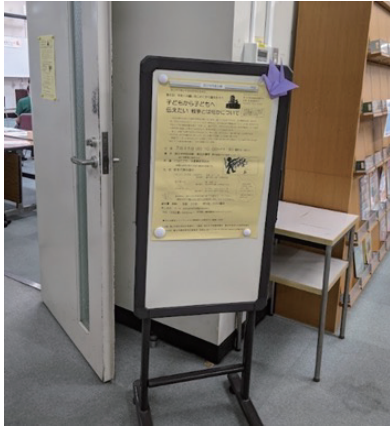
絵本の読み語りの休憩時間にも学びを深めてもらえるように、絵本「おりづるの旅」に登場する像や募金チラシの写真、さだこさんの折り鶴の写真と再現(米粒との大きさを比較)、平和を伝える絵本などを展示しました。

・組織体制(協力団体やスタッフの構成)

国分寺市青少年育成南地区委員会の委員と企画に参加している中学生等で会場準備等を行いました。絵本の選定や絵本の読み方等は、市内在住、元小学校教諭の山崎翠さんにご指導いただきました。



チラシ



会場入り口の案内板

2 「新しい日常」を踏まえた工夫・取組

——次に、この事業における、「新しい日常」を踏まえた工夫など、実施において工夫されたポイントについて教えてください。

新型コロナウイルス感染拡大前までは、絵本の読み読みの後に、みんなで鶴を折りながら語り合う時間を設けていました。感染対策のため、語り合うことが難しいと考え、本番では鶴を折らず事前に鶴を集めることにしました。チラシの裏面に折り紙の柄を印刷し、各学校に折り鶴の募集の箱を設置し、折った鶴を入れてもらうようにしました。

クラスによっては、朝学習の時間に鶴を折ってくれました。また、家庭でも保護者と一緒に折ってくれました。折り鶴を折ることで平和や戦争について考える機会を提供できたと思います。2年前に比べると、2,000羽以上と倍増しました。当日、クリアファイルでフェイスシールドが簡単に作れることも紹介しました。

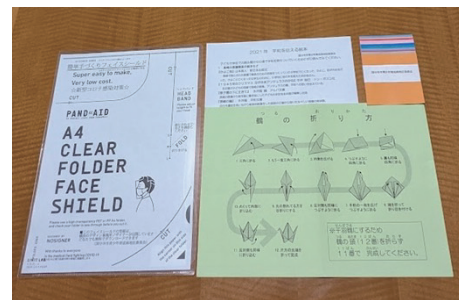
3 当日の実施の様子

——そうした工夫を踏まえて実施された、読み読みの当日の様子について教えてください。

当日は、開始1時間前に集まり会場の設営を行いました。新型コロナウイルス感染対策としてソーシャルディスタンスに気を使いました。読み語り手と参加者の距離などを考え、メジャーで測りながら椅子を配置しました。椅子を消毒し換気のために窓を開けました。アンケート記入用の鉛筆も消毒しました。

当初、予定していた会場が新型コロナウイルス感染対策のため使えなくなり展示用のパネルを用意することができず、テーブルの上に展示物を並べることにしました。会場で配布物を配るためのクリアファイルは、手作りのフェイスシールドの紹介を兼ね透明度の高いものにしました。見本に作ったフェイスシールドを展示し、読み語り手の中学生も自分で手作りしたフェイスシールドを使用しました。30分前、司会者と読み語り手の中学生は指導の山崎翠さんを交え絵本を読む位置やマイクの調整を行いました。

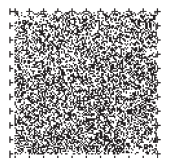
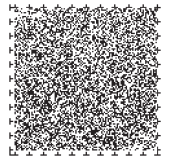
受付では、検温の後に手のアルコール消毒を行い、配布物を手渡ししました。おすすめの平和を伝える絵本リストや折り紙、手作りフェイスシールドの型紙、ボランティア活動の紹介チラシをセットしたクリアファイルです。

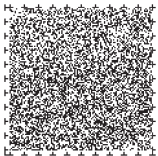


参加者への配布物



手作りフェイスシールドの紹介と見本





新型コロナウイルスのため参加者が来てくださるか心配でしたが、読み語り手の中学生のご家族やお友達、担任の先生も見に来てくれました。子ども10名、保護者等20名、委員10名の合計40名の参加となりました。

開会挨拶では、読み語り手の子どもたちと昨年の12月から5回も集まり、企画内容の検討と練習を重ねてきたことを伝えました。絵本『おりづるの旅』は、読み語りには行いませんでしたが概要を紹介しました。原爆の放射能による終わらない被害、元気だったただこさんが原爆を落とされてから9年目に発症し、1年後に亡くなったこと、同級生が原爆で亡くなった子の慰霊碑建立のために運動し、原爆の子の像ができたこと、平和運動が世界に広まっていったこと。そして、子どもでもみんなで力を合わせて活動すれば願いを達成できることを子どもたちに伝えました。

心に響かせるために読み語る順番も話し合いました。一番目の中学校の先生は、戦争とは殺し、殺されることであることを『ぼくのかえがきこえますか』で迫力ある読み語りで伝えてくれました。二番目の中学生は「簡潔な言葉で戦争について表現し心に残った」との思いから、『せんそうしない』を読み、戦争は子どもが犠牲となることを伝えました。三番目の中学生の『あの

夏の日』では、長崎の原爆の話から平和を引き継いでいく思いが伝えられ、続いてお母さんが「長崎平和宣言」を朗読しました。

休憩中、一人で参加した小学6年生が、展示した絵本を熱心に読む姿が目に入りました。声をかけた所、次年度に向けて企画段階から参加してくれることになりました。平和の思いが伝わり、感激と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、閉会後には、会場から退室する参加者から感謝の言葉を沢山いただきました。

集まった折り鶴2,082羽は7月に国分寺市へ届け、8月広島へ届けてもらいました。一人一人折った鶴が、国分寺市、広島へと一連の平和への活動につながっていくことになります。

読み語り手の中学生等には本番終了後、作文を書いてもらい活動報告「にこにこ通信」として各学校に配布しました。参加しなかった子どもたちや保護者にも「にこにこ通信」で原爆の実態や平和への思いを共有してもらえたと思います。

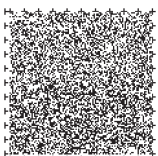
開催日より2か月後、読み語り手の中学生とともに活動の振り返りを行いました。自分たちの結果に満足し、やりきった達成感と自信にあふれていました。



開会挨拶の様子



読み語りの様子



4 参加者の反応やスタッフの感想

——事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

参加した子どもからは、「戦争や原子爆弾のことを知ることができた。これから戦争をおこさないためにどうしたらよいか考えていきたい」「とても勉強になりました」、保護者からは、「難しい言葉を並べて訴えるよりもストレートに心に響きました」「コロナ禍で活動が制限されることが多いと思います。継続されていること、とても大事だと考えています」「平和について学ぶ機会を子どもたちに提供して下さい感謝いたします」「あたりまえの日常を考えさせられる時間となりました」など平和や戦争を考えるよい機会となったと好評をいただきました。

5 事業を通じて得られたものや課題

——そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあつたでしょうか？

前年度から行われた打合せでは、子どもたちの積極的な発言が行われ素直な意見に感心しました。この事業は、読み語りをした子どもだけでなく、参加した子どもにも学校や家庭では味わえない貴重な体験の場になっています。戦争や平和について、じっくり学ぶ場は、大人からの未来を生きる子どもたちへのプレゼントだと思います。

今年は、2月よりロシアのウクライナへの侵攻のニュースが日々報道され、以前より戦争が身近に感じられます。戦争や平和についての絵本は、子どもが読み語りすることで、より伝わりやすくなっています。今後も多くの子どもたちに読み語り手となってもらえるよう、地域や学校などに参加を呼びかけたいと考えています。

6 終わりに

——最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

戦争の絵本は、つらく悲しい気持ちになります。令和4年度は、手話で「世界中のこどもたちが」を無言で大合唱し、明るい未来を全員で感じたいと考えています。

今後も中学生が主体的に取り組む姿勢を育み、大人と一緒に、核の恐ろしさ・戦争の真実・平和の大切さ等について学び、じっくり考え、表現する機会を継続して設けたいと思います。



国分寺市人権平和課へ集まった折り鶴を寄贈



活動報告「にこにこ通信」

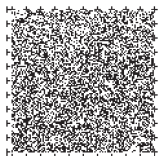
モデル指定のポイント

☆イベントの準備段階から企画に中学生が積極的に関与する取組となっており、数年間にわたる取組の中で、青少年の主体性や豊かな感性を育成することができている。

☆青少年が一堂に会して折り鶴を折る従前の形式を見直し、チラシの裏面に折り鶴の折り方を記載し、各小学校に折り鶴の募集の箱を設置する形式を採用している等、「新しい日常」を踏まえつつ参加者の拡大を実現している。

連絡先

国分寺市 子ども若者計画課 【電話番号】 042-325-0111



地域の取組事例の紹介 ～多文化共生の取組～

文京区社会福祉協議会に御協力いただき、地域で取り組む多文化共生の事例を紹介します。

文京ボランティア支援センター

「なつぼら 2022 1Day プログラム」

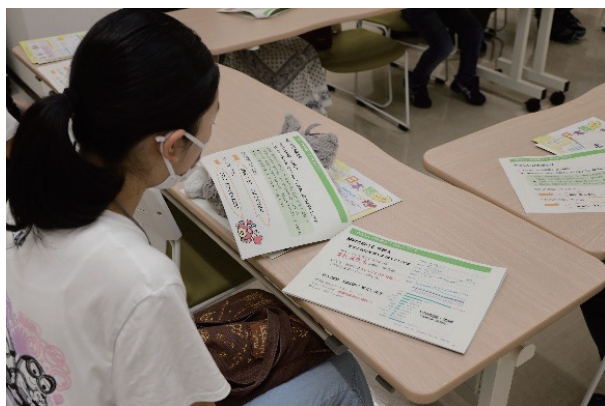
(1) 団体の概要

文京区社会福祉協議会が運営するボランティアセンターです。

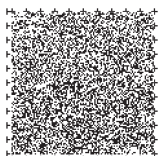
文京区社会福祉協議会は、地域福祉活動計画の基本理念である「知り合い、伝え・伝わり、心を寛（ひろ）げ、つながりをもつこと」で、『お互いさま』が生まれるまちの実現に向けて、さまざまな事業を通じて地域の皆さま、民生委員・児童委員、行政、福祉施設、ボランティア・NPO、企業等の皆様とともに、地域福祉の向上と充実に努めています。

(2) 開催のきっかけ

- ①災害時の外国人・外国にルーツを持つ方々のサポートとして、やさしい日本語が必要だということを以前より認識していました。
- ②東京都による、やさしい日本語の啓発が活性化した際に、センターとしても何か取り組めないかと考えていました。
- ③外国にルーツを持つ方々の「ボランティア活動をしたい」というニーズに対して、活躍してもらう場面をセンター内で話し合いました。（コロナ禍であり、ボラン



やさしい日本語入門講座の様子



ティア活動自体があまりなかったことも関係している）
④①～③を踏まえて、毎年行っている、夏のボランティア体験の中でこのプログラムを実施してみてもどうかという結論にいたりしました。

(3) イベントの概要

文京ボランティア支援センターでは、夏の間ボランティア活動が体験できるプログラムをまとめて、「なつぼら 2022」として行いました。その中の一つのプログラムに 1Day プログラムがありました。

1Day プログラムは、「知る」をテーマに、3 時間程度の時間の中で、2つのミニ講座と6つの活動体験（体験コーナー）をするというプログラムです。体験コーナーは、ブース形式でボランティア団体さん等に出席いただきました。

【当日のプログラム内容】

開催日：令和 4 年 8 月 6 日（土）

9：00～16：30の間で開催

会場：文京区民センター（文京区本郷 4-15-14）

①ボランティア活動を知ろう

ボランティア活動について「知る」最初の一步です。

②やさしい日本語入門講座

「やさしい日本語」ってなんだろう?? どんな時に使



添削中のボランティアさんと参加者

うの?? そんなことを「知る」講座です。

③体験コーナー

広い会場に体験コーナーを5か所設置します。各コーナーを回ってさまざまな活動などを体験していただきます。

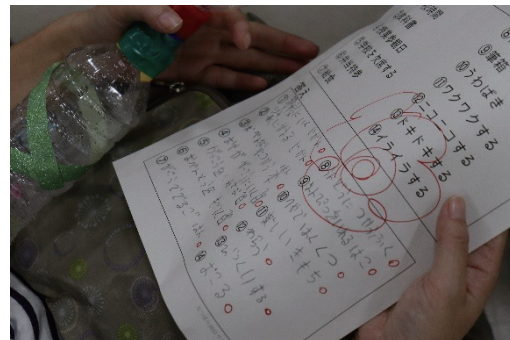
その中で、やさしい日本語の取り組みも行いました。ミニ講座で、東京都生活文化スポーツ局の村田さんより、「やさしい日本語ではなそう」というテーマでお話をいただいた後、体験コーナーでやさしい日本語の変換体験（難しい日本語を、やさしい日本語へ変換する）を行いました。

（４）工夫した点

- ①聞くだけでなく、やさしい日本語への変換が体験できるようにしました。
- ②やさしい日本語への変換は、小学生、中学生、高校生以上と、3パターン用意しました。
- ③変換した問題の採点を、外国にルーツを持つボランティアさん（当事者）にお願いしました。



添削中のボランティアさん



添削されて参加者の手元にもどった問題用紙



やさしい日本語 体験コーナー



ボランティアさんと東京都職員

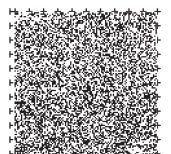
（５）参加者の声

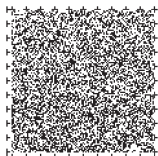
- 困っている外国人の方などがいたら、今日のことを活かして助けるなどしたいです。
- 日本には外国人がたくさんいることがわかった。「やさしい日本語」を意識することが、大切だと思った。
- 「やさしい日本語」は小さい子どもや外国の人々にすぐ役立つことが分かった。
- 私は英語と韓国語を学び、少し話せるがやさしい日本語であれば、もっと多くの人に伝わるかもしれないので、やさしい日本語も考えていきたい。
- やさしい日本語でわかったことは、外国人は、こんなに不便だったんだなとわかったので外国人にわかりやすくフリガナをつけようと思います。

【この事業についての問合せ】

社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 文京ボランティア支援センター

【電話番号】 03-3812-3114

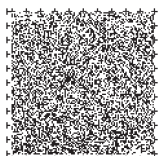




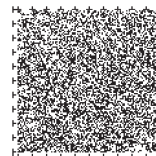
過年度青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例等一覧(直近10年間)

	事例名	場所	取組主体
平成 24 年度	「地域レクリエーション」 ～牛込第一・牛込第三中学校生徒会による企画・運営～	新宿区	新宿区笹筒地区青少年育成委員会
	生徒の想い まつりを創る、文花中地域ふれあいまつり	墨田区	文花中地区青少年育成委員会
	親子で農業体験～じゃがいもクラブ・だいこんクラブ～	世田谷区	青少年上祖師谷地区委員会
	西砂川地域ふれあい松明祭り	立川市	立川市青少年健全育成西砂川地区委員会
	「三鷹中央学園の子どもたち」 ～おかあちゃんたちが創る、こどもたちの未来へのかけはし～	三鷹市	みたかスクール・コミュニティ・サポートネット
	子どもたちの食から地域のきずなまで、 農業・食育体験教室	青梅市	青梅食育クラブ
	こどもの家オリエンテーリング	調布市	調布市健全育成推進染地地区委員会
平成 25 年度	「目黒区青少年委員会の試み」 ～中高生による駄菓子屋と工作教室の運営～	目黒区	目黒区青少年委員会
	あいさつ運動	目黒区	目黒中央中学校区地域教育懇談会
	栄町・若葉町少健プール	立川市	少健栄町地区委員会、少健若葉町地区委員会
	「共成小地区委員会」～子供と大人、大人と大人の橋渡し～	昭島市	青少年とともにあゆむ共成小地区委員会
	一年生下校時付き添い隊・見守り隊	清瀬市	清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会
平成 26 年度	みなとキャンプ村	港区	港区青少年対策地区委員会
	一中学区青少年対策事業 (標語コンクール・意見発表会・巣立ちの会)	三鷹市	三鷹市青少年対策第四・第六・南浦地区委員会
	青梅っ子わいわいフェスタ	青梅市	青梅市青少年対策青梅地区委員会
平成 27 年度	落一育成会スノーツアー ～子供に雪国の楽しさ厳しさを体験させる～	新宿区	新宿区落合第一地区青少年育成委員会
	菅刈キャンプ ～「次世代コミュニティリーダー育成」の実践～	目黒区	目黒区菅刈住区住民会議青少年事業部
	商店街探検・店員体験	町田市	町田市青少年健全育成原町田地区委員会
	田んぼ・畑活動	町田市	町田市青少年健全育成小山田地区委員会
平成 28 年度	練馬区子どもフェスティバル	練馬区	練馬区青少年育成第四地区委員会
	いけばな子ども教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	八ヶ岳キャンプ	多摩市	多摩市落合地区委員会
平成 29 年度	深小キャンプ	調布市	調布市健全育成推進深大寺地区委員会
	復興支援 フリーマーケットとおもちつき	小平市	小平市青少年対策二小地区委員会
	横山地区青少年育成ロードレース大会	八王子市	八王子市青少年対策横山地区委員会
	羽村市青少年健全育成の日事業(子どもフェスティバル)	羽村市	羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会
平成 30 年度	中学生対象事業	品川区	品川区青少年対策荏原第三地区委員会
	ふれあいニューイヤーマラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成葛西第二地区委員会
	小学校卒業記念ナイトウォーク	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	もちつき会	あきる野市	あきる野市青少年健全育成五日市地区委員会
令和元年度	牛込第二中学校との連携事業	新宿区	新宿区早稲田地区青少年育成委員会
	農業体験学習(田植え・稲刈り)	大田区	大田区青少年対策新井宿地区委員会
	防災キャンプ	大田区	大田区青少年対策蒲田東地区委員会
	学校プレイパーク	江戸川区	江戸川区青少年育成松江北地区委員会
令和 2 年度 (リフレット※)	じゃがいもクラブ	世田谷区	世田谷区青少年上祖師谷地区委員会
	【在宅版】みねまち親子木工教室	大田区	大田区青少年対策嶺町地区委員会
	職場体験・動画版	墨田区	墨田区桜堤中地区青少年育成委員会
令和 3 年度	一地域みまもりクエスト	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会
	文の京こどもまつり	文京区	文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会
	建築家 隈 研吾 氏 講演会	大田区	大田区青少年対策田園調布地区委員会

※コロナ禍により事例集は作成せず



青少年健全育成地区委員会等推進モデル事業 次年度の募集について



東京都は、都内の家庭、地域社会、学校が連携し、青少年を地域ぐるみで育成する取組を「推進モデル」として指定し、広く都内各地域に紹介します。

●概要（令和4年度）

【推進モデル指定条件】

推進モデルは、地域ぐるみで青少年を健全に育成することを目的とした、以下の（1）から（3）までを満たしている活動です。

- （1） 令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日）中に実施した事業であること
- （2） 地域社会（地区委員会、NPO団体、町会、商店会等）、学校、関係機関等と連携を図って取り組んでいること
- （3） 青少年の正義感や倫理観を育むと共に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど多様性の意識を育むために実施する取組で、以下のアまたはイに該当するものであること
 - ア 地域の中で青少年を育てる取組
 - イ 青少年の体験を豊かにする取組

また、昨年度から重点テーマを設定しています。

【令和4年度重点テーマ】

- ・「新しい日常」を踏まえながら、地域で新たな協力の輪を広げた取組であること
- ・地域の外国人との交流を通じて、子供たちの多文化への理解を深めた取組であること

推進モデルに指定された場合

- ◇東京都が作成する「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例集」に、取組事例を掲載します。事例集を東京都のホームページにも掲載することにより、取組事例を広く紹介します。
- ◇毎年開催される地区委員会の研修会でも取組事例を紹介させていただきます。
- ◇東京都知事表彰である「東京都青少年育成協力者等感謝状」の推薦対象となります。

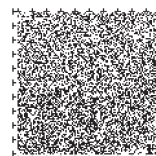
●令和5年度の「青少年健全育成地区委員会推進モデル事業」の募集について

令和4年度に実施した都内地区委員会等の取組について、区市町村を通じて3月に募集依頼予定です。「スポーツの振興」や「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを踏まえた地域活動」を重点テーマにする予定です。

皆さんの様々な工夫事例をお待ちしています。

【スケジュール（予定）】

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・募集 | (令和5年3月～5月) |
| ・ヒアリング | (令和5年5月) |
| ・モデル指定・モデル事例集原稿依頼 | (令和5年6月) |
| ・モデル事例発表 | (令和6年2月) |



参考リンク集

地域における青少年の健全育成事業



東京子供応援協議会



多文化共生の推進



若年支援



※QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。

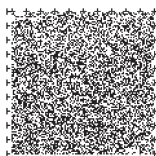
令和4年度 青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集

令和5年1月発行

登録番号 (4) 66

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部若年支援課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03 (5388) 3098

印刷 株式会社モモデザイン
〒167-0035
東京都杉並区今川三丁目20番10号
電話 03 (5303) 2790



古紙/再生紙配合率60%再生紙を使用



リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。